

川崎病院通信

<http://kawasaki-hospital-kobe.or.jp/>

2012年6月発行

発行責任者 病院長 中村 正
編集責任者 浦野 聖史

〒652-0042 神戸市兵庫区東山町3丁目3番1号 TEL: (078)511-3131



特別号

院長交代のご案内

平成24年5月30日付けで院長が市原紀久雄より中村正に交代いたしましたことをご報告申し上げます。今後も市原理事長、中村院長のもと、病院一丸となって地域医療の発展のため最善の努力をして参りますので、ご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

院長退任挨拶

医療法人川崎病院
理事長 市原 紀久雄



五月末をもって川崎病院の院長を退任させていただきます。15年の長きに亘るご厚情を感謝いたします。

私が院長職を拝命したのは平成9年の5月末でした。以来、思い出多いことばかりです。平成10年は現在の南館が完成、続いて現在の本館と西館の大改修が行われました。この病院のリニューアルで、外来が南館の一階に移動し、患者さんのアクセスが非常に改善しました。築後60年の病棟も一部建て替え、一部大幅改修され、入院患者さんのアメニティーは飛躍的に向上いたしました。患者さんに喜んでいただいたことが大きな喜びでした。このリニューアルの頃は全国的に病床の再編成の盛りで、急性期病床と療養病床に分かれていく時期でした。経営的に苦しい時期でしたが、私達の川崎病院は全館急性期病床として、地域医療に貢献することを決断しました。以後二度に亘る診療報酬のマイナス改訂という大変な時期もありました。

近年の重大な出来事は医師と看護師の不足でした。地域の需要も少なくなったことも重なり、小児科や産科の閉鎖を余儀なくされたことは残念なことであります。その他の部門につきましては、地域の先生方や患者さんたちのご支援、職員一同の頑張り、そして多くの幸運に恵まれて乗り切ることが出来ました。現在は救急医療をはじめとして、循環器疾患、消化器疾患、腎疾患、悪性腫瘍、生活習慣病などをメインとして、順調に地域医療の一翼を担わしていただいています。新規入院患者数も順調に増加し、在院日数も12日前後と短縮、平均的な急性期病院となりました。現在は、第五次医療法の方針に沿って四疾病五事業のうち、がん・心筋梗塞・糖尿病・救急医療などの拠点病院として兵庫県から指定されています。ひとえに地域の先生方のご支援、ご協力の賜物と感謝しております。さらに先生方との連携を強化して、地域医療のお役に立ちたいと念じています。

昨年3月に川崎病院は旧病棟を全て刷新するための新病棟の建設を開始しました。新棟の完成は本年12月、旧館を整理し周辺の整備が終わって全ての工事が終了するのは来年の10月の予定です。完成の暁には、新生川崎病院として、患者さんのアメニティーの向上と最新の高度の医療設備を装備し、さらに地域医療に貢献したいと思っております。ご期待ください。

まだ工事半ばでございますが、私は高齢となり自分では気づかない能力の退行も心配されますので、病院の運営を後進に譲りたいと存じます。院長退任後も暫くは理事長職を続けさせていただく予定です。診療は今までどおりに続けたいと思います。院外の活動として、神戸市二次救協議会や兵庫県民間病院協会などの病院関係の仕事も微力ではありますが、継続させていただく予定です。

川崎病院院長を長年無事に勤めさせていただけたのは、地域の先生方の熱いご支援の賜物と心から感謝しお礼を申し上げます。



この度、市原紀久雄前院長の後任として5月30日より病院長に就任いたしました。各位におかれましては市原先生と同様にご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。

川崎病院は川崎グループの企業病院として昭和11年に設立されて今年で76年目、昭和25年に医療法人として独立して62年目を迎え、今では、神戸市内中央部の中核病院として地域の人々に親しまれております。「良質な医療を提供し信頼される病院に」を病院の医療理念として掲げ、安全・安心の医療を提供できるように職員一丸となって鋭意努力を続けていきたいと願っております。そのために、各診療科の医療機能を充実させ、チーム医療を推進し、医療安全に十分配慮した診療を行って参りたいと思います。

大変喜ばしいことに、今年の年末に竣工予定の新病棟の建設中でありまして、順調に建築も進んでおります。新病棟完成を絶好の機会ととらえ、診療機能の充実を図っていききたいと考えております。これまで、力を入れてまいりました、急性期医療につきましても、新病棟にICU部門を新たに設置しCCU部門とともに救急医療に対する対応力を高めたいと考えております。

近年、食生活の欧米化や運動不足などの生活習慣の変化により、肥満が増加し、メタボリックシンドロームや糖尿病が増加しています。これらは、動脈硬化を起こし、心血管疾患の大きな原因となっています。幸い、当院では、糖尿病や循環器疾患に対する診療は、歴史的に見てもすでに高いレベルの診療能力を有しており、皆様から大きな信頼を得ていると思っています。PCIの件数も昨年度は400件を超えており、今後ますます増加するニーズに対応すべく、新病棟では最新機種 of 心血管造影装置の追加設置を予定しております。

また、今年度より新たに兵庫県指定がん診療連携拠点に準ずる病院の指定を受け、より高度ながん専門医療を提供できるように努力してまいります。消化器がんをおもに、外科手術および化学療法を中心に力を入れています。外来化学療法室も充実させ、消化器がんだけでなく血液疾患への対応も今まで以上にできるように整備していききたいと思います。

無類の高齢化社会となったわが国で、運動器疾患は今後増加するものと思われませんが、当院では、高齢者の骨関節疾患への対応は無論のこと、手の外科、スポーツ外傷、小児整形などのユニークな領域の専門医がおりますので、この診療領域でのさらなる充実を図っていききたいと思います。

川崎病院が、ここに述べました機能をより確かなものにするためには、地域医療連携室をとおした、病診連携、病病連携が最も重要です。今後は、さらに地域医療連携機能を充実させ、地域医療支援病院の認定を取得すべく努力していききたいと思います。当院の所在する兵庫区は、神戸市の中でも高齢者が多い地域です。急性期の治療が終了しても、体力不足からなかなか退院出来ない患者さんも多いのが現状です。リハビリや機能回復に専念出来る療養型病院、老健施設、特別養護老人ホームとの連携も重要ですが、やはり、在宅医療に移行できる患者さんを増やす必要があります。昨年、在宅医療支援室を立ち上げ、専門ナースを配置して活動を開始しておりますが、さらなる整備が必要と考えております。病診連携、病病連携のさらなる発展のためにも、何卒、各位におかれましてはご理解とご支援をいただきますようお願い申し上げます。